

都市と美術研究会  
2018年11月13日(火)

中国の鏡の世界—かたちになる願い  
Bronze Mirrors From Ancient China—Visualization of Wishes

早稲田大学 文学学術院  
講師(任期付) 檜山満照

発表要旨

常日頃、きっと誰もが一日に一度は目にする鏡。この道具は、姿見として生活に密着した日用品でありながら、どこか呪術的で、どこか神聖な「マジカル」なイメージがつきまとう不思議な品である。鏡それ自体は、どこかの文化文明でも等しく生活必需品として制作し、洋の東西を問わず、少なからずそこに呪術的なイメージと用途を見出していたように見受けられる。ただし、中国の鏡ほど、そのイメージを巧みに利用し、図像、文様、文字を駆使して、実に様々な想いをそこに視覚化してきたものはない。そしてそれは、歴代、汎アジア的な広がりをもって伝来し、現代では世界中に多数のコレクターが存在するに至っている。

今回の発表では、現在、早稲田大学會津八一記念博物館で開催中の「穴澤コレクション 古代中国鏡の世界」展の内容に合わせて、中国の鏡にまつわるエピソードをいくつか紹介する。それをもとに、鏡という工芸美術から垣間見える古代東アジアの都市と都市とのつながりを検証し、史書には記されていない人やモノの往来や、多様な民族の日常的な交流の様子を復元してみたい。